

「野の花の丘」 便り (10月上旬)

「ススキ」と「セイタカアワダチソウ」

「セイタカアワダチソウ」は北米原産で、昭和40年台以降には日本全国で大繁殖するようになりました。凄まじい繁殖力だけではなく、なんとその根には他の植物を駆逐する毒素が含まれ、日本の古来の植物たちはこれにやられてすっかり駆逐されてしまいました。

一時はあれほどの猛威をふるった「セイタカアワダチソウ」でしたが、彼ら自身も自らの毒で被害を被り自滅を始めました。「セイタカアワダチソウ」の勢いが衰え、力の空白が出来たところへ、「ススキ」が乗り込んで勢力を回復してきています。「ススキ」は他の植物より効率よく光合成をすることが出来るそうで、劣悪な環境でも耐える能力を持っています。また「ススキ」は「セイタカアワダチソウ」の毒に耐性を持つようになったらしいのです。

植物の仁義なき戦いとでも言うのでしょうか。

なお北米では、日本からやって来た凶暴な外来種「ススキ」が猛威をふるい始め、在来種の「セイタカアワダチソウ」を駆逐して問題となっているのだそうです。

植物の世界もグローバル化が進んでいるようです。

ススキ



セイタカアワダチソウ



